

# 熱田神宮 宝物館だより

## 熱田神宮宝物館

編集 内田雅之

〒456-8585  
名古屋市熱田区神宮一丁目1番1号  
TEL (052) 671-0852 FAX (052) 671-1202  
(年6回発行)

### 11月平常展 —熱田神宮宝物展—

10月27日(金)～11月28日(火)  
(期間中無休)

※展示品は毎月入替いたします

特別陳列 第22回熱田の杜 東海現代刀匠刀剣展より



太刀 銘 濃州住兼久作之  
平成丁酉歳中秋吉日

1口

長さ 76.2cm 反り 2.2cm

しのぎづくり いおりむね  
鑄造、庵棟、腰反り高く先伏しごころ、中鋒の太刀姿。板目  
肌詰み、処々に柁がかり地沸つく地鉄に沸出来、互の目を主体に  
処々のたれ・丁子が交じり、帽子はふくらに沿って先小丸に返る。  
茎は勝手下りの鑿目、刃上がり栗尻で、表裏に作者銘と年紀を切  
り分けている。

作刀者である兼久（本名 吉田 研）氏は、父の吉田征夫氏・  
叔父大野正己氏に師事して作刀技法を学んだ。昭和 63 年に作刀  
承認を受け、日々鍛錬に勤しんでいる。

同氏は美濃伝や相州伝、新刀特伝を研究し、正宗・兼氏、堀川  
国広らの刀匠の作例を目標としている。

#### その他の主な展示品

◎重文 ○県文

《書跡・古文書》 ◎日本書紀（巻第八） ○法楽歌仙連歌懐紙  
徳川家光知行朱印状 他

《絵画》 弟橘媛図-景城筆- 少彦名大明神像-織田杏齋筆- 他

《工芸》 ◎黒漆根古志形鏡台 ◎入帷残闕 ○瑞花双鳳文八稜鏡 他

《刀剣》 ○短刀 銘 村正 ○太刀 銘 七十一翁 莊司美濃介藤原直胤  
嘉永二年二月吉日

脇指 銘 広正 脇指 銘 広重作 脇指 銘 相州住綱広 脇指 銘 月山 他

## 第22回 熱田の杜 東海現代刀匠刀剣展 展示リスト

No.	名 称	長さ	反り	作 者 名
1	金山彦命図掛け軸			
2	刀 銘 二十五代藤原兼房作 平成二十八年春	78.6	2.7	加藤賀津雄
3	脇指 銘 兼道作之 平成二十九年夏	30.8	0.4	小島 應直
4	黒塗小サ刀拵			
5	脇指 銘 兼道作之 平成二十九年春	52.7	1.2	
6	刀 銘 濃州住兼道兼時合作 かこつるへ 平成二十八年初春日	72.2	1.7	
7	黒呂色家紋高蒔絵塗打刀拵			
8	短刀 銘 美濃國住丹波兼信彫同作 平成丁酉年八月吉祥日	27.4	なし	丹羽 清吾
9	槍 銘 美濃國住丹波兼信彫同作 平成丙申年拾月拾二日吉祥日			
10	小太刀 銘 美濃國藤原房幸作(花押) 平成廿七年七月七日「諸難滅儘」	57.5	2.0	福留 裕晃
11	刀 銘 美濃國福留藤原房幸作 花押 平成廿六年八月朔想	57.5	2.0	
12	鉄 鍔			
13	短刀 銘 兼久作之 平成丁酉歳中秋	26.5	なし	吉田 研
14	茶色塗出鮫合口拵			
15	太刀 銘 濃州住兼久作之 平成丁酉歳中秋吉日	76.2	2.2	
16	太刀 銘 濃州住兼久作之 平成廿八年五月吉日	71.7	1.5	
17	短刀 銘 正也作 平成二十八年七月	24.7	なし	吉田 政也
18	太刀 銘 正也作 平成二十八年春	81.3	3.2	
19	脇指 銘 美濃國住兼國作 平成二十八年春吉日	51.0	1.0	尾川 兼國
20	刀 銘 美濃國住兼國作之 平成二十七年春吉日	74.7	1.8	
21	文 鎮			
22	和鉄小刀			
23	短刀 銘 二十六代兼房作 平成二十八年八月吉日	26.6	なし	
24	鉄地金銀布目象嵌松図金具一作打刀拵			小栗 辰己

# 12月平常展 — 熱田神宮宝物展 —

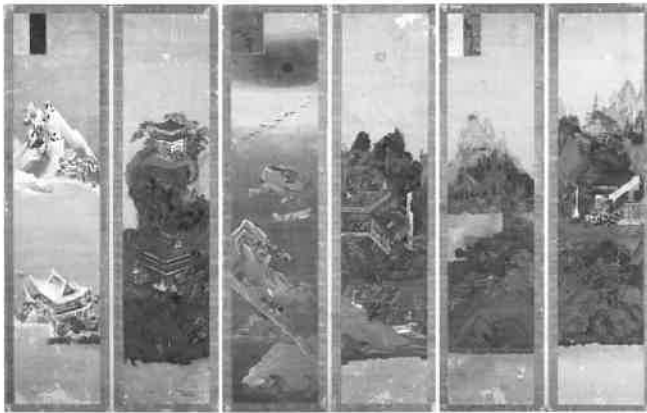
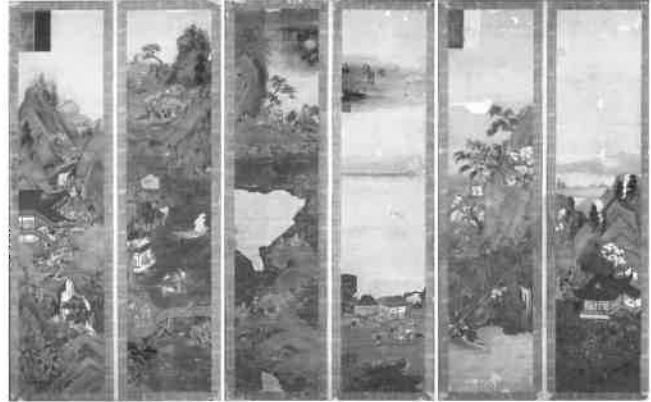
12月1日(金)～12月24日(日)  
(期間中無休)

※展示品は毎月入替いたします

## コーナー展 — 屏風と絵巻物 — より



(部分)



(部分)

さんずいずびょうぶ

山水図屏風

絹本着色 6曲1双

各扇 縦172.3cm

横37.8cm

室町時代

室町時代以前の古式表装がなされており、当初五尺屏風であったものを継絹、補筆・補彩などをし、現在の形態にしたものと思われる。

右隻右より春景・夏景を描き、左隻は秋景から冬の雪景色を展開する四季山水画となる。所々に禅機図や騎驢の高士図を配しており、絵伝的な要素を含む。また、田楽や楼閣上での奏楽、水浴の図など様々な主題が描かれているが、本図の画題については今後慎重に検討する必要がある。

## その他の主な展示品

◎重文

○県文

《書跡》 ◎日本書紀(巻第九) ◎後花園天皇宸翰御消息 ◎足利義教御内書 ○阿弥陀経 他

《絵画》 熱田神宮年中行事絵巻 寒詣図-伊藤君樵筆- 古木雪橋山水図 年中行事片々-石川英鳳筆- 他

《工芸》 ◎錦包挿鞋 ◎朱漆弓 ◎入帷残闕 ○鳥獸花文鏡 ○双竜雲文鏡 蓬萊鏡 他

《刀剣》 ○脇指 銘 長門守藤原氏雲 ○太刀 銘 尾張国犬山之住人兼武作 脇指 銘 对馬入道橘常光 他

《コーナー展示-屏風と絵巻物-》 花鳥図屏風-渡辺清筆- 鳳凰桐図屏風 舞楽面図屏風 蓬図屏風

徒然草図屏風-伝住吉如慶筆- 古楽器之図-渡辺清筆- 建保中殿御会図 信貴山縁起絵巻摸本 他

## 予告 新春特別展 「日本の聖地 ～伝世の神社宝物～」

日本人は、古くより神を尊び祖先を敬い、神々と共存し祖先伝来の美風を学ぶことにより、幼い頃より家庭や地域、しいては国に尽くす精神を受け継いでまいりました。普段老若男女を問わず、誰しものが神社の境内に入る時、何かしら清らかさに心の洗われる様を意識し、神前に立つ時には一切を忘れて、一心に神に向かう清々しい心になっていることでありましょう。神々に対する敬神の念は、古今を通じて一貫して不易であり、全国各地の神社において脈々とその信仰を現在に伝世しています。

本展覧会では、各地に古くより連綿と息づく神社信仰を紹介するとともに、それぞれの神さまに捧げられた祈りの証とも言うべき神社ゆかりの宝物を通じ、先人たちの神さまへの敬虔な祈りの姿を思い浮かべ、神社に対する理解を深めていただく一助とし、日本人としての志を更に一段と昇華させ、後世に継承してゆくことを目的に開催します。

本年は、静岡県の三嶋大社・富士山本宮浅間大社・静岡浅間神社・久能山東照宮・秋葉山本宮秋葉神社、岐阜県の南宮大社など、著名古社ゆかりの宝物と、当神宮の宝物をあわせて展覧します。

新年の初詣にあわせ、是非御拝観くださいますよう御案内申し上げます。

- 会 期 平成30年1月1日(日)～1月30日(火) 会期中無休
- 主 催 熱田神宮 中日新聞社
- 後 援 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会  
名古屋鉄道株式会社 神社本庁

### ■主な展示品 ●国宝 ◎重文 ○各県指定文化財

- ◎太刀 銘 長船住人長光(徳川家康奉納) ○紅糸威腹巻(徳川家康着初) 静岡浅間神社蔵
- ◎太刀 銘 安繩 秋葉山本宮秋葉神社蔵 ◎太刀 銘 三条 南宮大社蔵
- 薙刀 無銘(直江志津 徳川家康所用) 判金請取状(徳川家康筆) 久能山東照宮蔵
- 武田信玄願状 富士山本宮浅間大社蔵
- ◎太刀 銘 了戒 嘉元三年三月日 山城住人九郎左 ◎脇指 銘 長谷部国信 織田信長黒印状 熱田神宮蔵



○鉄板札紅糸威五枚胴具足 武田勝頼奉納  
(富士山本宮浅間大社蔵)



●短刀 来国俊  
(熱田神宮蔵)



洋犬図(部分) 徳川家重筆  
(久能山東照宮蔵)



◎太刀 長船景光  
武田信玄奉納  
(富士山本宮浅間大社蔵)